

# ニュース学童保育

=私たちの活動 4つの柱=  
 \* 制度化と指導員の身分保障  
 \* 専門性と仕事の確立  
 \* 父母と共に学童保育運動の発展  
 \* 全国の指導員との団結と連帯

# 施設の課題、 県へ声をあげる 群馬支部

## 余裕教室、 間借りの実態

近年、学童保育の利用児童数が増加しています。群馬県でも大規模化に伴う施設問題が深刻になっていきます。

先日、県連協主催の県との懇談会に参加し、組合員のいる学童クラブの保護者、指導員が施設問題についての発言をしました。

桐生市では余裕教室を



桐生市と組合との交渉（2017）

利用しているところが多く、黒板のある教室のみ

まなので水道や事務、休養スペースもない状況を、館林市は児童数が増

加したクラブが一時的に児童館を間借りしているが、利用制限があり生活ができない状況を伝え、子どもたちが安心してくつろげる居場所になっ

ていない現状を伝えてきました。県担当課は各自治体への働きかけ

をするようにという返

答でしたが、自治体は少

子化により減少傾向に

ある子ども

の人数を懸念して、な

かなか動いてくれない、



事業活動は、組合活動を支える財政にもなっているようです。

中にはこれ以上の増設、増築はしないと言いつつ、将来的な部分を考えることも必要、というのもあり、今現在学童保育を利用している子どもたちのために一刻も早い施設整備が必要なのではと思います。

## 事業活動が、 交流の機会に

群馬学童保育支部では組合活動を支えるための様々な事業活動を行って

いま

す。

先日は毎年11月に開催される地域の文化祭に群馬学童保育支部として参加してきました。

毎年組合員自慢の手作り品を持ち寄ったり、焼き鳥、ポップコーンなどを作ったりして販売しています。

たくさんの方が集まる文化祭は、事業活動としてだけでなく、地域の方や子どもたちとのふれあい、組合員同士の交流、地域の方に学童保育を知ってもらえる良い機会にもなっています。

事業活動で集めた資金は交流行事や学習会、研究会へ送り出すための資金として使われます。

こんなふうに楽しい活動をしながら学習するための資金を集めて、交流を深められるような機会をもっと増やしていきたいです

（群馬学童保育支部

一ノ瀬香緒理）

## 「学童保育の改善政策要求」、 すべての支部で、 活用を

政府が、「従うべき基準」を参酌にしようとしています。

しかし、自治体の基準条例を必ず「参酌」にしなければならないわけではありません。

これ以上、地域ごとの格差を広げてはいけません。

自治体に「学童保育の改善政策要求」を持ち込み、基準の引き上げと予算の増額こそ必要だ、と訴えていきましょう。